

# 所 報

## 氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町 4-9

(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8221 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail [kyouikukenkou@city.himi.lg.jp](mailto:kyouikukenkou@city.himi.lg.jp)ホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/>[menu000000200/hpg000000155.htm](http://www.city.himi.toyama.jp/hp/menu000000200/hpg000000155.htm)

## たくましさととは

氷見市中学校体育連盟会長

氷見市立西條中学校校長 河上 昌俊

私には、満 2 歳になる男の子の孫がいる。歩き始めるのが遅く、1 歳半くらいでようやくよちよち歩きができるようになった。傍で見ていると危なっかしい歩き方で、つい手を差し伸べたくなる。始めの頃は、手を差し出すと喜んで手を掴もうとしてきたが、近頃は、手を差し出してもそれを断り、あくまでも自力で歩こうとする。転んでも、自分の力で立ち上がりおぼつかないながらも一人で歩き始めるのである。大げさかもしれないがその姿には、心を強く打つものがある。私はその姿に、生命力といおうか、一人の人間として生きていこうとするたくましい力と無限の可能性を感じるのである。

こうしたことは、幼児に限ったことではない。小学生や中学生にも、それぞれの年代に応じた同様の姿を見ることができる。それは、人として力強く、自分の力で生きようとする根源的な姿である。

話は変わるが、私は、三年前から野菜作りをするようになった。自宅前の小さな畑で、薬物野菜を中心に育てている。主な作物は、小松菜、ホウレン草、ネギ、キャベツ、ピーマン、ブロッコリーなどである。実のなるものは難しいので避けているところもある。そら豆ときゅうり、トマトは毎年挑戦している。自分で作った野菜は格別にうまいので多少の世話も苦にならない。むしろ世話をしている時間は、一番心が洗われる時間かもしれない。

しかし、いつもあまりうまくできないのがトマトだ。トマトは、小さな苗を買ってきて植え付ける。始めの頃は順調に育つのだが、実がなる頃になると木が枯れてしまうことが多い。他の野菜と同じように、毎日水をやり世話をしているのにトマトだけが途中で枯れてしまう。あるときテレビ番組で、おいしいトマトの育て方を取り上げていた。糖度が高く、しかも丈夫なトマトを作る秘訣

は苗の植え付け直後からの水やりだという。植え付け直後に水をやりすぎると、根がそれに甘えてしまう。むしろ少なめにしておくことによって、極限まで水を吸収しようとして、しっかりとした根を張り巡らすという話だ。

今年こそはと思い、それを実践してみた。さらに、梅雨時の雨を避けるためビニールシートの屋根も取り付けてみた。おかげで、今年は途中で枯れることもなく、心なしか甘みの濃い大きな実のトマトをお盆過ぎまで楽しむことができた。猛暑の中、少ない水でも成長するトマトにたくましさを感じた。

さて、話をもどすと、私たち大人が子供を育てる営みはどうだろう。各家庭に兄弟姉妹がたくさんいたり、近所ではいつも遊び仲間があふれていたりした我々の世代と違い、小さい頃から切磋琢磨する機会の少ない現代の子供たちは、親も壊れ物を扱うような接し方になりがちではないだろうか。そんな子供たちに対して「十分に水をやる」のがいいのか「少なめに与え、しっかりと吸収させる」のがいいのか、判断は大変難しい。

コンクリートの小さな隙間からでも頑丈な根を張る雑草のようなたくましさばかりを求めても解決にはならないだろう。おいしいトマトを育てる水やりの極意のように、優しさと厳しさのあんばいを工夫しなければならないのではないかと思う。また、子供たち自身も与えられるのをただ待つのではなく、一種の「渴望」ともいえるようなハングリー精神をもってほしいと願う。わがまをぐっと堪え我慢し、自分の中の耐性を鍛え、自分自身の力で生きていくために必要な力を身に付ける努力が必要であると思う。我々大人は、少なくとも枯れそうな葉を見逃さないように態勢を整えておく必要はあるが、子供たち自身が力強く生きる努力をし続け、たくましい人間に成長することを信じ、見守りたいものだ。

## 平成26年度 夏季研修会で学びを深める

今年度、本センターでは、義務教育9年間において「学びを繋ぐ、支援を繋ぐ」をキーワードに学習・生活両面における小中連携教育を推進しています。夏季研修会では、学力向上、生徒指導、教育相談、危機管理等の教育課題への対応力を高め、ミドルリーダーと若手教員の育成を目指した研修を企画しました。その研修会的一端をご紹介します。

### 若手教員向けの研修会

#### 仲間に学ぶ研修会 7月29日(火)

昨年度、中央研修や内地留学で学んで来られた先生方を講師に、「ケースに学ぶ危機管理」「相談室登校生徒への支援」について実践的な演習を交えながら学び合いました。先輩の先生方の体験談や仲間の話に刺激を受け、今後のやる気につながる研修会でした。

#### ふるさと学習研修会 8月1日(金)

児童・生徒に「ふるさと氷見」を学習教材として教えるには、実際にそのものを知る必要があります。そこで、今年度氷見市に初めて勤務することになった教員や新規採用教員が、氷見市の漁港や博物館等市内の主な施設・史跡を見学し、氷見の魅力を発見する機会になりました。

### 教員の資質向上に向けての研修会

#### 学校経営研修会 7月29日(火)

演題 「学校における法律問題」

講師 弁護士 島谷 武志 先生

学校事故やいじめに関する問題等についてのトラブルや事故・事案にどのように配慮し対応しなければならないかを教えていただきました。



#### 教育セミナー

##### ・第1回(兼学力向上研修会) 7月30日(水)

演題 「学力向上を支える学級づくり ―成果を上げる教師のリーダーシップ―

講師 上越教育大学教職大学院 准教授 赤坂 真二 先生

学力向上を支える学級づくりにおける教師の指導の仕方について教えていただきました。自主的に活動できる学級づくりへの教師の手立てや教師と子供との信頼関係づくりの大切さを学び、これまでの取組の見直しと2学期からの実践意欲付けになりました。

##### ・第2回(兼教育相談等コーディネータースキルアップ研修会) 8月26日(火)

演題 「通常学級における特別支援教育

―ユニバーサルな対応と個別支援への段階的な対応―

講師 新潟大学 教授 長澤 正樹 先生

問題行動を行う子供に対する様々な対応や支援の仕方を、具体的な事例に基づいて教えていただきました。子供たちの話をじっくり聞くことや長い目で見て支援していくこと、できていることを認めることの大切さを教えていただきました。

#### 教育相談等コーディネータースキルアップ研修会 8月8日(金)

演題 「チームでかかわる個別の支援」

講師 富山大学 教授 喜田 裕子 先生

不登校児童生徒へのチーム支援の在り方について、具体的な事例によるワークショップを取り入れて話をいただきました。支援会議を成功させるコツ等を教えていただきました。

#### 生徒指導研修会 8月20日(水)

演題 「インターネット上の危険性について」

講師 富山県総合教育センター科学情報部 研究主事 亀島 正吉 先生

インターネットやソーシャル・ネットワークキング・サービス(SNS)の仕組みや危険性について、具体的な事例を示しながら詳しく教えていただきました。子供たちへ情報モラルをしっかり教えていく必要性を強く実感する機会となりました。

## ICT 活用力向上に向けての研修会

### ICT 活用力向上研修会開催

～電子黒板・タブレット型パソコンの有効な活用を目指して～

開催日時 8月6日(水)・25日(月) 13:30～16:30

開催会場 宮田小学校・比美乃江小学校

講師 富山大学人間発達科学部 教授 山西 潤一 先生



今年度、小中学校に電子黒板が追加配置され、新たに、タブレット型パソコンやデジタル教科書が導入されました。これらのICT(Information and Communication Technology:「情報通信技術」の略)をどのように活用すれば、子供の学びの充実に繋がるのか、富山大学の山西教授から、具体例を示しながら教えていただきました。

研修会では、参加者が実際にタブレット型パソコンを操作したり、デジタルコンテンツを活用した実践事例を発表したりして、手軽にできる活用方法を学ぶことができました。

参加者からは、「ICTの活用が、楽しく、分かる授業に繋がることを実感した。難しく考えず、気軽に取り組んでいきたい。」「教科等のねらいを達成するために、どう使うかが大切。写真の拡大や映像資料等、指導効果が向上する場面を考えていきたい。」と感想がありました。

## 小・中学校の力作がそろった

### 氷見市児童生徒科学作品展覧会

開催期間 9月13日(土)～14日(日)

開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール



今年度の児童生徒科学作品展に小・中学校から72点(小学校36点、中学校36点)の作品応募がありました。身近な生き物や自然現象に興味・関心をもち、継続的に観察・実験を行っているものや条件をそろえて実験結果を導き出しているものなど、限られたスペースに分かりやすくまとめられた多くの素晴らしい作品が集まりました。審査の結果、以下の4作品が県の科学作品展に出品されました。

作品名	学校・学年	名前	県科学展
高くとべ ヘリコプター	朝日丘小学校 2年	菊地 玲娃 菊地 暁生	創意工夫賞
いちごのつぶつぶの正体 —Part II—	湖南小学校 4年	奥野 周穂	研究努力賞
ツバメの観察 パート2	湖南小学校 5年	林 瑠那	研究努力賞
かいわれ大根の研究③	朝日丘小学校 6年	菊地 絢花	創意工夫賞

## 氷見っ子の夢と希望きらめき推進事業(開催案内)

### 本木 克英 氏 講演会

#### 「夢を刻む—映画監督の仕事—」

開催日時 11月12日(水) 開演 13:50

開催会場 氷見市ふれあいスポーツセンター

参加対象 中学2年生、教員、一般希望者

### 本木克英監督

#### プロフィール

1963年、富山県生まれ  
早稲田大学卒業後、松竹  
に入社

#### 主な作品

『釣りバカ日誌イレブン』  
『超高速!参勤交代』など





## 新規採用教員の半年を振り返って

### 宝物は友達



比美乃江小学校 椿原 未来子

「宝物は友達です」友達とけんかすることが多かった A 児が最近書いた言葉である。また、二学期の学級目標を決める話合いでは「みんな笑顔」「友達の話を聞く」など、友達や学級を大切にしようとする考えがたくさん出てきた。子供たちの心の成長がとてもうれしい。

これからも子供たちの思いを大事にしながら「自分を大切に、友達を大切に、全員で成長する」学級づくりに努めたい。そのためにも、私自身が挑戦し、学び続ける教師でありたい。

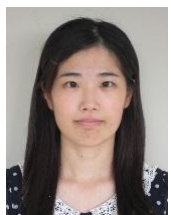
### チームワーク



窪小学校 濱田 雄弘

手探りの半年、先輩方からのアドバイスに何度も助けられた。縦割り清掃でのこと、同僚の先生が一生懸命に取り組んでいるクラスの子供の様子を、私に教えてくださった。そのことをクラスのみんなに伝えると、その子供のとてもうれしそうな笑顔だけでなく、俄然やる気を出す他の子供たちの姿も目の当たりにした。自分一人ではなく、「みんなの目で子供たちを見守る」という教員集団のチームワークの大切さを実感した。今後も教職員のチームの一員として子供一人一人のよさを見付け、やる気を引き出す教師でありたい。

### 無限の可能性を秘めた子供たちと共に



上庄小学校 杉本 侑里恵

小学生の頃から憧れていた念願の教員になり、はや半年。単元と子供たちを、どのように出会うか考えて教材研究を積むことで、子供の可能性がどんどん広がっていくことを学んでいる。「スイミーの勉強、終わるの寂しいな」「今日から始まった勉強、好きになりそう」という声を聞くと、子供たちから活力や教師としての幸せをもらっていることを実感する。親身になって指導して下さる先生方の背を追いながら、子供一人一人に寄り添い、学び続ける教師でありたい。

### 半年を振り返って



明和小学校 三崎優子

養護教諭として働きはじめ、子供たちの笑顔や周りの先生方に支えられながら、あっという間に半年が経った。日々、保健指導を素直に受け入れ、実践してくれる子供たちを目の当たりにし、教師としての喜びとその責任を強く感じている。

これからも悩んだり失敗したりすることがたくさんあると思うが、養護教諭になりたいという夢が叶った喜びを感じながら、自己研鑽し、成長していきたいと思う。

### 半年を振り返って



北部中学校 笹木 邦紘

4月から2学年の副担任として北部中学校に勤務してから半年が経った。わからないことばかりの毎日で、先輩の先生方に助けられ続けた半年だった。また、生徒に「教える」立場でありながら、生徒から「教えられる」ことの多い半年だった。

授業や部活動で生徒と関わり合う中で気付いた生徒のいろいろな思いを大事にして、最大限生かすことができる教師になりたいと思う。そのためにも教師として経験を積み、生徒と共に学び、自分自身も成長していきたい。

### 生徒に励まされて



西條中学校 田中 敏樹

漢字一字で表すとすれば、この半年間は「悩」という文字に集約される。50分の授業をどのように展開するかをはじめ、部活動や学校行事の指導等、日々悩み続けてきた毎日だった。教師の一言、一動作が生徒に大きな影響を与えることに気付き、自分の言動に後悔した日もあった。

それでも、授業や部活動に意欲的に取り組む生徒の姿に励まされ、ここまでくることができた。今後は、生徒を励まし、生徒の可能性を広げられる教師に成長していきたいと思う。